

〔台記〕天養元年十一月廿一日戊辰、雨下、臨暮晴、光房來云、今上御時、節會未出御、依幼少也、今度初可

出御、御歲左大臣稱疾在仁和寺、必可參者、對曰、夜間所惱得減、但鼻塞、聲枯、內辨可招嘲、且又先例參

入之人、猶依咳、病免、內辨退出、二年十月廿日壬辰、自今朝咳、病有溫氣、寢食背常、

〔明月記〕貞永二年○天福元年二月十七日壬辰、近日咳、病、世俗稱夷病、去比夷狄入京、萬人翫見云々、是極

不吉徵也、

〔吾妻鏡三十五〕寬元二年四月廿六日丙申、今度被行四角四堺鬼氣祭、是近日咳、病、溫氣流布、貴賤上

下、無免之間、將軍并公達以下御祈禱也、兩君有此御患云々、若君子今無御平滅云々、

〔園太曆〕康永四年九月十九日

病事御祈事天下依有病事被行御祈例

文永元年七月上旬以來咳、病、流布

同月廿日、於內裏被始行五大虛空藏金輪法、依病事并彗星御祈也、

〔妙法寺記〕天文四年、難義ナル咳病ハヤリテ皆死申候、

〔鹽尻五〕一此間天下庶人、三日疾の咳流布す、今時も一兩日人の病事有、三日疾といふべきかも、寶

永四年の冬、富士山燒し比、三四日の咳、病を煩しもの天下に多かりし、

〔病名彙解六〕傷風シヤウフウ 要訣ニ云、傷風、傷寒、俗ニ呼テ傷寒トス、陰陽ノ二氣皆ヨク臟腑ヲ犯ス、故ニ陽

氣太陽ヲ犯ストキハ傷風トナル、風ヲ惡テ汗アリ、陰氣太陽ヲ犯ストキハ傷寒トナル、寒ヲ惡テ

汗ナシト也、

〔撮壤集下〕傷寒シヤウカン 傷寒シヤウカン

〔醫心方十四〕傷寒證候第二十三

病源論云、經云、春氣溫和、夏氣暑熱、秋氣清涼、冬氣氷寒、此則四時正氣之序、冬時嚴寒、萬類深藏、君子

傷寒

傷風